

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	データベース構築	
担当教員の実務経験	Access等を使用したデータベース構築への従事	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	45コマ ・ 3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	Microsoft Office Access 2016を使用し、データベース構築と操作を学習します。	
授業の到達目標	Microsoft Office Access 2016を使用した、基礎から応用的なデータベースの構築とデータベースに対する操作ができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、授業ごとに提出された演習課題によって評価します。	
準備学習・時間外学習	演習課題の実施が授業時間内に終わらなかった場合は、自己学習によって次回授業までに必ず終わらせておくこと。	
使用教科書・教材・参考書	Microsoft Office Specialist Access 2016 対策テキスト& 問題集、 Access 2013 テキスト 基礎編、Accessによるシステム構築問題集20XX	
授業上の注意点	MicrosoftOfficeAccess2016を使用します。 授業ごとに与えられた演習課題の実施時間は授業時間数に含めます。	
	授業計画（内容）	コマ数
データベース基礎		20
(1)データベースとは		
(2)Accessの基本操作		
(3)テーブルの作成、フィールドプロパティの設定		
(4)クエリ作成		
選択クエリの作成、並べ替え・抽出条件の設定、パラメータクエリの作成、演算フィールドのあるクエリの作成		
(5)フォームの作成		
(6)レポートの作成		
(7)リレーションシップ		
自動結合、手動結合、参照整合性の設定と動作確認、連鎖更新、連鎖削除		
(8)クエリ/レポート応用		
集計クエリ、クロス集計クエリ、不一致クエリ、アクションクエリの作成		
グループ集計レポートの作成		
データベース応用		25
(1)住所管理システムの開発		
(2)メディア管理システムの開発		
(3)売上管理システムの開発		
(4)住所管理システムの開発		
(5)レンタルDVDシステムの開発		
	合計	45
	授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング応用 (Java)	
担当教員の実務経験	プログラマ・システムエンジニア	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	75コマ・5単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にプログラミングで動作を確認しながら、Javaの基本文法からオブジェクト指向プログラミングの初歩 (クラス・インタフェース等) を理解します。 ・ 認定試験「Oracle Java Bronze」の合格を目指します。 	
授業の到達目標	Javaの基本文法やオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し、認定試験「OracleJava Bronze」の合格、または同等のJavaプログラミングに関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	学習に遅延が発生しそうな場合は、授業時間外にも学習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE ・ 徹底攻略 Java SE Bronze 問題集 	
授業上の注意点	極力プログラミングで動作確認しながら進めてください。	
授業計画 (内容)		コマ数
Java言語のプログラムの流れ		2
データの宣言と使用		3
演算子と分岐文		4
繰り返し文と繰り返し制御文		4
オブジェクト指向コンセプト		3
クラス定義とオブジェクトの生成・使用		6
継承		5
ポリモフィズムとパッケージ		6
テキスト章末問題総復習		4
試験対策問題演習 (問題集使用)		18
模擬試験 1		5
模擬試験 2		5
模擬試験 3		5
模擬試験 4		5
合計		75
授業単位数		5

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング実践 (Java)	
担当教員の実務経験	民間の情報系企業に勤務し、プログラマ、システムエンジニアとしてシステム開発に従事。	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	36コマ・2単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	Javaプログラミング・コーディングの実技を通して、Javaの概要を理解するとともに、オブジェクト指向プログラミングの考え方を学びます。 現在、情報系企業でシステム開発に携わっている講師が、企業でのICT活用の実態や経験も伝えながら、学生に仕事のイメージを持たせます。	
授業の到達目標	様々なプログラムを実際に作成し、実践に役立つコーディング技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。プログラミング課題、出席率、成果 (達成目標) 等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	独自制作テキスト	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
基礎プログラミング	基礎的な制御文・データ型の理解	4
CUIプログラミング①	ソースファイルの分割	4
CUIプログラミング②	入力に応じた結果出力	4
CUIプログラミング③	配列を利用した結果作成	4
CUIプログラミング④	プログラムの機能拡充	4
GUIプログラミング①	GUIプログラミング基礎	2
GUIプログラミング②	キー入力に応じた制御方法	4
GUIプログラミング③	状況に応じたウィンドウ制御	4
GUIプログラミング④	用途に応じたGUIパーツの活用	4
GUIプログラミング⑤	メニューバーを持つ「フリーブック」の制作	2
	合計	36
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	アプリケーション実習Ⅱ	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科4年	
実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	MicrosoftOfficeSpecialist資格試験（Word、PowerPoint）の合格を目標として、問題演習などを行います。	
授業の到達目標	表計算ソフトの基本的な操作ができるようになること、MicrosoftOfficeSpecialist試験（Word、Powerpoint）の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、MicrosoftOfficeSpecialist資格試験の合否、プレゼンテーションの実施結果及び平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	MOS Microsoft Word 2016対策テキスト&問題集 FOM出版 、30時間でマスター Power Point 2016 実教出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
Word対策		
(1)文書の作成と管理		2
(2)文字、段落、セクションの書式設定		2
(3)表やリストの作成		2
(4)参考資料の作成と管理		2
(5)グラフィック要素の挿入と書式設定		2
(6)模擬試験プログラム活用による模擬試験演習		20
Powerpoint対策		
(1)プレゼンテーションの作成と管理		2
(2)テキスト、図形、画像の挿入と書式設定		2
(3)表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入		2
(4)画面切り替えやアニメーションの適用		2
(5)複数のプレゼンテーションの管理		2
(6)模擬試験プログラム活用による模擬試験演習		20
合計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	Linux実習	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科2・4年	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	電子開発学園メディア教育センターのサーバにインターネット経由で操作することにより、リアルな体験ができます。シェルプログラミング、ファイル管理、Viエディタなど一般ユーザによるコマンドで、実習を中心に使える技術を身に付けます。	
授業の到達目標	実習をととして Linux の基本的な操作を習得すること、シェルプログラミングが使えることを目標にします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習課題や科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	メディア教育センターのサーバは翌年2月末まで24時間接続可能ですので、授業時間外でも実習が可能です。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「改訂 基礎から学ぶLinux（SCC）」 ・[参考図書]日経リナックス（日経BP社） 	
授業上の注意点	毎回、実習課題、確認問題、演習課題を用意します。	
	授業計画（内容）	コマ数
	Linuxの概要、Tera Termのインストール	1
	ユーザ管理、メール交換	1
	プロセス	1
	ファイルシステム	1
	パーミッション	1
	シンボリックリンクとパス指定	1
	エディタ（1）	1
	エディタ（2）	1
	ネットワーク関連コマンド	1
	シェル	1
	シェルの操作	1
	シェルスクリプト	1
	総合実習	1
	科目試験	1
	合計	14
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	セキュリティ応用	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を学習します。また企業としてのセキュリティポリシー策定手順とその要点を学習します。講義ではニュースや事件をとりあげてWeb改ざんやプライバシー情報の流出が企業の信用に与えるダメージを説明するとともにその対策をあげていきます。不正アクセスや内部犯行の手口を知り、企業がとるべき対策を考えていきます。	
授業の到達目標	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を理解し、実際に生かす能力を修得することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	セキュリティ応用（SCC：学習ノート）	
授業上の注意点	毎回、確認問題を用意します。	
	授業計画（内容）	コマ数
	アプリケーションセキュリティ	1
	認証技術とパスワード管理	1
	人為的脆弱性	1
	マルウェア対策	1
	暗号方式とPKI	1
	組織的情報セキュリティ対策	1
	リスク評価とリスク処理	1
	情報セキュリティを脅かす騙しの手口	1
	攻撃と侵入	1
	技術的セキュリティ対策	1
	セキュリティ応用技術	1
	情報セキュリティマネジメントシステムと評価	1
	有線/無線LANと携帯端末のセキュリティ	1
	科目試験	1
	合計	14
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	卒業研究	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科4年	
授業時間数・単位数	90コマ・6単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	在学中に自分が学んだことや身に付けたこと、チャレンジしたことなどからテーマを選び、調査や研究をして報告書を作成する。また、その内容をプレゼンテーションする。	
授業の到達目標	在学中に習得した知識を駆使した研究成果物を完成させ、卒業研究発表を行うことで、計画立案と実行する能力、進捗管理や目標達成の能力を身に付ける。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、研究成果によって評価します。	
準備学習・時間外学習	研究活動を行う時間が足りない場合は、放課後等の時間を使って進めること。	
使用教科書・教材・参考書	特になし	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. テーマの選定	5
	2. 研究活動	30
	3. 研究報告書の作成	30
	4. プレゼンテーション資料の作成	18
	5. プレゼンリハーサル	4
	6. プレゼン本番	3
	合計	90
		6

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	応用情報対策講座	
対象学生	情報システム科、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	139コマ・9単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報処理技術者試験の応用情報技術者試験で問われる知識・技術を、講義動画によるテキスト学習・問題演習を通して身につけ、更に過去問題や模擬試験により理解を深め、試験合格を目指します。	
授業の到達目標	応用情報技術者試験の合格、または同等の情報処理に関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ニュースペックテキスト ・ 応用情報技術者試験午前問題集・午後問題集、過去問題集 	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション		1
午前基本講義（全10分野）		20
午前問題演習		8
午後実践講義（全6分野）		28
午後問題演習		20
午後試験実力養成		8
模擬試験 1		9
模擬試験 2		9
過去試験問題 1		9
過去試験問題 2		9
過去試験問題 3		9
過去試験問題 4		9
	合計	139
	授業単位数	9

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	各種検定試験対策	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科3・4年	
実務経験		
授業時間数・単位数	135コマ ・ 9単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職等に有益な検定試験について、本科カリキュラムに関連する授業がない場合など、学生各自が目標とする検定試験を選定し、学習方法やスケジュールを教員と相談の上、テキスト学習や過去問題等の演習を行います。	
授業の到達目標	選定した検定試験の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、検定試験合否や模擬試験の結果、平常点等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは学習が不足する場合は、授業時間外での学習が必要です。	
使用教科書・教材・参考書	選定した検定試験のテキスト・問題集等	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	検定試験選定・学習計画立案	3
	学習活動(テキスト学習、問題演習)	132
	※関連するカリキュラムが他の科にある場合は、極力その授業計画に沿って受講する。	
	合計	135
	授業単位数	9

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	Androidアプリ開発基礎	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科3年	
授業時間数・単位数	13コマ・1単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [○]	
授業の概要	Java言語によるプログラミング作業を通して、Androidアプリケーション開発の基礎を理解します。 WindowsPC上の統合環境を使用し、Androidの基本API、ユーザインタフェースを中心に学習します。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC上にAndroidアプリケーションの開発環境を構築できることを目指します。 ・ 開発環境を利用して、基本的なアプリを作成できることを目指します。 	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。授業内で作成した実習課題の完成度、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間内に実習課題が完成しない場合は、授業時間外でも実習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	講義補助資料を配布	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	Androidアプリケーションの開発環境構築、Androidの概要	1
	Androidアプリケーション作成（1） [開発の流れと基礎知識、アプリケーションの構成要素、文字列描画・イメージ描画]	2
	Androidアプリケーション作成（2） [イメージ・アニメーション処理、ボタンイベント、オプションメニュー、音声再生]	5
	Androidアプリケーション作成（3） [図形の描画、繰り返し処理、タッチイベント、トースト表示]	5
	合計	13
	授業単位数	1

